

## 一般用医薬品の生産能力を大幅強化することで、持続的な成長を実現し、200年企業を目指す

### 長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

国内外で需要が拡大している一般用医薬品の生産能力を大幅に引き上げることで、人々の健康寿命の延伸に貢献する。

国内外の健康を支える医薬品メーカーとして  
早期の売上高100億円を達成し、200年企業を目指す。

#### <社会に対して>

- 健康寿命の延伸や病気の予防・早期手当などの社会的な健康意識の高まりに対して、高品質な一般用医薬品製造によって貢献する
- 海外市場への進出を加速し、メイドインジャパンブランドの医薬品を拡め、中小医薬品メーカーとして一般用医薬品の海外市場No.1を目指す  
(2025年4月現在15か国に進出実績あり)

#### <顧客に対して>

- 高度な医薬品開発力をもって、新商品開発から製造までワンストップでサポートし、医薬品業界の発展に貢献する

#### <社内に対して>

- 社員とその家族の幸福実現に向けた「道経一体の経営」/三方善と社会に役立つ人づくりを行う
- 経営の絶対的安定＝自己資本比率60%超を目指す
- 働きやすい職場づくりにより、人材の定着・成長を促す
- 売上規模の拡大による飛躍的な企業成長を遂げ、  
全社員を対象に持続的な賃上げを実現する**

### 会社全体の売上成長目標（2031年3月期）

- 売上高成長率 **+244.8%**（直近決算比較）
- 売上高増加額 **+68.2億円**（直近決算比較）

### 会社全体の賃上げ目標

- 4.5%（直近事業年度～基準年度）
- 7.5%（基準年度～事業化報告3年目）

### 外発的動機

#### 【社会】

- 健康意識の高まり（健康食品・サプリメントへの興味関心）
- 健康に対する価値観の変化（対症療法から「未病」「予防」「アンチエイジング」へ）
- 医薬品の所得控除制度によるセルフメディケーションの推進
- 一般用医薬品の販売チャネルの多様化（通信販売の規制緩和、訪問薬剤師・在宅介護などの新チャネル拡大）

#### 【医薬品業界】

- 一般用医薬品の堅調な国内市場、高成長が続く海外市場  
※但し医療費抑制や人口減少により、国内市場は将来の縮小が見込まれる
- 医薬品メーカーの相次ぐ不祥事に対する行政処分（製造停止）、専門知識を持つ人材の不足、原料高騰、薬価制度の構造的課題等を受け、**医療用医薬品の需給逼迫が深刻化**  
※受託製造企業も医療用を優先することで、**一般用医薬品の供給能力が不足**
- 大手医薬品メーカーは製造のみならず開発段階から外部委託する傾向にあり、受託製造企業の開発力が問われるケースが増加
- 企画・開発・製造・医薬品承認申請まで、一貫した受託製造が可能な当社に、受託・OEM製造の引き合いが殺到している

### 内発的動機

- 当社の生産能力は限界に達しており、市場ニーズの高まり、殺到する顧客からの引き合いに対して、機会損失が発生し続けている
- 労働力人口が減少する中で人材確保が難しくなっており、生産における省人化・省力化が喫緊の課題である
- 将来を見据えた人材育成に本格的に取り組まなければ、企業として成長ができないという危機感を持っている
- できるだけ早期に中小企業から中堅企業へと成長し、医薬品製造業界内で一段上のステージへステップアップを果たしたい
- 新工場建設による生産能力の大幅増強に基づき、大手医薬品メーカー向けに一般用医薬品を大規模生産する計画が確定しており、当社の飛躍的な成長を実現する契機を迎えている。**

新工場立上げにより抜本的な生産性拡大と売上・利益増加を実現

当社では医療用医薬品の取り扱い無く、本補助事業で生産する製品は一般用医薬品である。  
国の薬価制度により価格を決定する医療用医薬品とは異なるものであるため、国が支出する過去又は現在の他の制度と同一又は類似の事業には当てはまらない

補助事業の  
背景・目的

新工場建設で生産能力を抜本的に増強し、国内大手医薬品メーカー向け一般用医薬品の大型製造受託、海外市場における一般用医薬品及びサプリメント需要に対応する

- 一般用医薬品市場の需給がひっ迫し続けており、当社も新規の引き合いを断らざるを得ない状況が続いている（機会損失の発生）
- 既存工場の生産性改善に取り組んできたが、生産スペースの増床ができなければ、現状以上の生産性向上は物理的に不可能な状況
- 人材の売り手市場が続く中、人員確保が厳しさを増しており、生産性改善による省人化や既存工員の定着を促す必要がある
- 取引先である大手医薬品メーカーから一般用医薬品（錠剤）の大規模生産の引き合いを頂いている**

事業費  
(補助額)

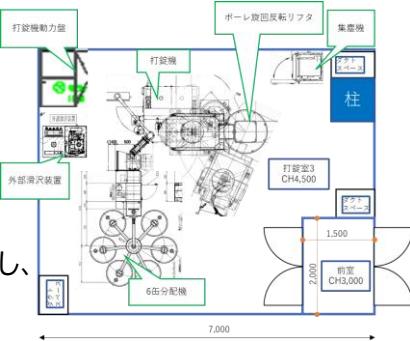
58億円  
(16億円)

設備投資の  
内容

新工場建設+最新の省力化・省人化設備の導入により、生産能力増強(現在の最大10倍)を実現

- 既存工場はこれ以上の増床が難しいため、新工場を建設し、既存工場との2拠点体制を確立。
- バッチサイズが既存工場の2～4倍となる生産設備を導入し、1ラインあたりの生産能力を大幅強化すると共に、これまで人手を要していた運搬・供給作業等もライン生産で自動化し、生産性を大幅改善。
- 少人数で生産量増を実現するため、夜間無人操業が可能な打錠機械、コーティング機械、錠剤外観検査機等を導入。
- 新工場稼働に合わせ、全社的なDX/DI\*生産管理システムを導入。新工場の一部の機械もDI対応仕様にし、ヒューマンエラー低減・タイムリーな生産変更・原料在庫状況の把握管理による業務効率化を図る。

【図：新工場・打錠工程の配置図】



\*データのライフサイクル全体において、改ざんや偽装を防ぎ、データの完全性と正確性が客観的に担保されている状態のこと。医薬品の安全性追求やデジタル化、そしてマーケットやサプライチェーンのグローバル化の流れの中で、データに関する不正や、要件の不適合が多く発生するようになり、業界内で重要度が高くなっている

目標値

項目	2028年3月期 (基準年度)	2031年3月期 (基準年度+3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	552万円/人	2,422万円/人 (年平均上昇率+63.7%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	458万円/人	569万円 (年平均上昇率+7.5%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均上昇率+7.5%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	110人	140人

新工場で働く  
従業員だけでなく  
全従業員を対象に  
賃上げを実施